

世界共通語の災害といわての海

津波 (TSUNAMI)

岩手県の海岸線は複雑で美しい景観として知られるリアス式海岸であり、観光地や豊かな漁場として人々に親しまれています。

一方、その海がときに恐ろしい一面を見せることを忘れてはなりません。

30万人以上の犠牲者を出したスマトラ島大地震による津波災害が

世界的にも「TSUNAMI」を有名にしましたが、

岩手県沿岸もこれまで何度も大きな津波被害を受けており、

その度に多くの人命と貴重な財産を失ってきました。

そして、近い将来、また津波の発生が予想されているのです。

■岩手の過去の津波



明治29年三陸大津波（釜石市）



昭和35年チリ地震津波（宮古市）

発生年月日	名称	マグニチュード	最高遡上高	死者・行方不明者
明29.06.15	明治三陸地震津波	8.5	大船渡市綾里38.2m	18,158人
昭08.03.03	昭和三陸地震津波	8.1	陸前高田市広田28.9m	2,671人
昭35.05.23	チリ地震津波	9.5 (モーメントマグニチュード)	宮古市金浜5.6m	62人

■岩手の津波の対策

約700kmに及ぶリアス式という入り組んだ海岸線を持つ岩手県は、明治29年の三陸大津波、昭和8年の三陸大津波、昭和35年のチリ地震津波と、過去3回大きな津波被害を受けました。その経験が津波防災対策への取り組みにつながっています。



閉めることで防潮堤となる陸開

岩手県沿岸では津波の浸水を防ぐ防波堤、防潮堤、水門等の整備や、迅速な避難誘導に不可欠な防災行政無線、波高計の設置などが進められています。また、平成16年度に津波被害想定調査を行い「岩手県津波浸水予測図」を公表。これをもとに全ての沿岸市町村が、地域住民と協同で「地域ごとの津波防災マップ」の作成に取り組んでいます。



津波監視カメラ

私たちは先人の津波の体験を生かし、津波防災マップの配布を行い、津波防災訓練の実施、自主防災組織の育成・強化を図っています。

■岩手の津波にそなえる

岩手県では、将来発生する可能性のある津波について、津波シミュレーションを行い公表しています。あくまでひとつの条件下で求めた結果です。実際にはシミュレーションの結果にこだわらず、地震を感じたらすぐに避難することが大切です。



＜凡例＞

■沿岸の各市における津波シミュレーション結果

市名	最大遡上高	影響開始時間
久慈市	22.2m	22分
宮古市	19.8m	14分
釜石市	20.6m	13分
大船渡市	31.2m	5分
陸前高田市	17.6m	6分

■30年以内に起こる海溝型地震の発生確率（基準日2005年1月1日）

（データ：「全国を概観した地震動予測地図」報告書／地震調査研究推進本部地震調査委員会／平成17年3月23日）

津波 Q&A

Q.津波はどうやって起こるの？

A.海底下での大きな地震によって、津波が発生します。地震の原因はプレート同士の接点のひずみ。岩手県は北米プレート上であり、三陸沖の太平洋プレートとぶつかるため起きやすいのです。

Q.津波はどれくらいのスピード？

A.海の深さによって変わります。太平洋の平均水深約4,000mではジェット機なみの時速700~800km/hの速さ。水深100mで新幹線並みの時速200km/h、津波は沿岸近くでも時速36km/hあります。

Q.津波は地震発生からすぐ来るの？

A.地震によります。過去の岩手の津波到達時間は30分前後ですが、震源地が近い場合はもっと速くなります。宮城県沖地震の場合、県南部に5分程度で襲来すると予想されています。「すぐに避難」が鉄則です。

Q.津波ってどれくらい高い波なの？

A.日本の最高記録は、沖縄県石垣島で記録された85m。リアス式海岸は、間口が狭いV字湾が多いため、津波が高くなりがちです。しかし足首程度の津波でも自由に動けなくなるので危険です。

Q.津波は一度くれば安心できるの？

A.津波はくりかえしやってきます。1回目ではほっとして戻ると、被災する可能性あり。2回目、3回目の方が津波が大きいこともあります。安全という情報を得るまで、高台で待ちましょう。